



1985年生まれ。兵庫県出身。総合家電メーカーで家電修理やスマートハウスの研究開発、エネルギーソリューションの新規事業を経験。在職中に実家でiPhone修理専門店を創業。その後、WebエンジニアとしてITベンダーやスタートアップにてSaaSの開発に従事しながら2018年に株式会社ナオセルを設立。

岸 悟志さん (NAGAYA 清澄白河駅前)

労力も、エネルギーも、資源も 「捨てない社会」へ

スマートフォンなどのジャンク品を売買できるフリマアプリ「ナオセル」を運営しています。ジャンク品といっても、画面交換さえすれば売れるものもあります。分解してパーツだけを使うこともできますし、修理業者なら空き時間に修理して商品化することもできる。皆さんも、修理に出して「パーツがなく修理できない」「修理するほうが高くつくので新品購入した方が安い」などと言われた経験はないでしょうか？それでもお客様の目線に立つと、直して使い続けたいというニーズは少なくないと思うのです。

ナオセルは「捨てない社会をつくる」というビジョンを掲げています。物だけでなく、人の労力も、エネルギーも、資源も、捨てない社会にしたいのです。物を作るには企画や検討にも時間と労力がかかりますし、工場で作るのにもエ

ネルギーや労力は使われます。物を捨てるのは楽ですが、それによって失われてしまうものがたくさんあります。

兵庫県から清澄白河に移り住んで5年になります。シェアオフィスを探していたらNAGAYAを見つけ、すぐに入居を決めました。初めは清澄白河オフィスを利用していましたが、この夏から清澄駅前に移籍しました。古物営業法では営業所登録のために個室が必要なため、個室が充実している駅前オフィスのオープンは渡りに船でした。

隣の方と会うたび挨拶する関係はシェアオフィスならだと思えます。テナントを借りていたらそこまでの繋がりは生まれなかったと思うのですが、シェアオフィスには身内感がありますね。住まいも近い人ばかりなので、関係性にも温かみを感じます。

NAGAYAを起点に、清澄白河を「スタートアップの街」にするのが今の夢の一つです。この街から羽ばたくビジネスが増えていくように、今後は起業を目指す人たちの支援にも力を入れたいです。地元の人ともコラボレーションして、この街に少しでも貢献できればうれしいですね。

奥谷 奈生さん (NAGAYA AOYAMA)

ヨーロッパの職人と作るジュエリー、20年来のファンも

母が立ち上げたブランド「imac (イマック)」で、オリジナルのコスチュームジュエリーをデザインしています。コスチュームジュエリーとは、ラインストーンや天然石を使ったジュエリーのことです。

imacではラインストーンを主に扱っています。得意なのは具象モチーフで、ボヘミアングラス発祥の地であるチェコの工房と提携して作っています。猫や花などの具象をラインストーンで表現するには高い技術力が求められますが、母の代から20年近く付き合いのある優れた職人さんたちと直接やり取りをして、色と形で具象を立体的に表現できるのがimacの強みです。これまでは年に4回ほどヨーロッパと日本を行き来するのが常でしたが、この1、2年は新型コロナ感染症の世界的蔓延で行くことが難しく、ずっと日本に留まっています。こんなにヨーロッパから離れているのは初めてのことで、不思議な感じです。

NAGAYAは、AHA Gallery Projectで知り合った中村さんの紹介で、2019年の秋頃に入居しました。テレビや映画、ファッション誌などのスタイリストさんにアクセサリーの貸し出しをする際には会議室を使用しています。テーブルが広いので、アクセサリーを並べて見ていただくのに便利なんです。スタイリストの方々はアパレルのショールームをいくつも回られるので、青山という立地もちょうど良かったです。

最近ではECサイトの運営も担当しています。店舗販売は販売員の方に委託するのでお客さまとお話をする機会がなかったのですが、ECサイトはお客さまと直接やり取りするので、レビュー機能を通じて「20年近くコレクションしています」「imacのファンです」という声を直接聞けるのがとてもうれしいです。コロナ禍がもう少し落ち着いたら百貨店のポップアップストアもやりたいですね。

これまでアクセサリーは「女性のための」と謳われることが多かったのですが、ファッション業界にもジェンダーレスが進んでいます。性別を問わず、広く楽しんでもらえるブランドを目指していきたいです。



株式会社イマックジュエリーの経営企画、デザイン、広報。
パリで生まれ、10代をフランスで過ごす。ジュエリーデザイナーである母と共に仕事をしながら、ビジネススクールで経営学を勉強し会社を設立。両親が創業したブランド「imac (イマック)」を更に世に広めるべく日々奮闘中。

衝撃的な現実にも向き合うことが第一歩。「アパレル」と環境問題

2021/11/04 「NAGAYA Online Cafe 番外編『サステナビリティ』」開催レポート



▲ゲスト：加藤学さん (Patagonia)

昨今、頻繁に耳にする「サステナビリティ」。そもそもサステナビリティとは？また、私たちに何ができるのでしょうか？ますます注目を集めるサステナビリティにフォーカスをあて、私たち自身の未来の行動を具体的に考えるきっかけを作りたいという思いから、6月から数回にわたり、「サステナビリティ」をテーマにした NAGAYA Online Cafe 番外編を開催してきました。

今回のゲストは、Patagonia でマーケティングを担当されている、加藤学 (かとうまなぶ) さんに登壇していただきました。加藤さんは海の近くで生まれ育ち、中学からサーフィンをはじめ、社会人になっても毎週海に通っているとのこと。

加藤さんにとって海は小さい頃から遊び場であり、サーフィンが続けている今でも身近で、「心と身体を整えてくれる人生に欠かせない存在」なのだそう。そんな経験から、アパレル以外にも原発処理水海洋放出の問題を考えるオンラインイベントなども開催されています。

NAGAYA Online Cafe では、アパレルにおける動物の問題、アパレルが及ぼす環境問題についてお話ししていただきました。特に、アパレルにおける動物問題については、説明だけではなく写真の共有もあったので、目を背けたくないような現実を知り、ショックを受ける方も。それでも加藤さんは、「現実を知ることがまずは第一歩。この問題を知ろう、向き合おう」としてくださる皆さんだから話せること」と力強くお話ししてくださいました。

参加者の方々からも、「なぜ今気候変動が止まらないのか?」「私たちが今できることは何か?」「環境に興味関心がない層への働きかけはどのようにすべき?」「加藤さんの活動をもっと知りたい!」など質問がたくさんあり、アパレルが及ぼす環境問題の現状を知るだけでなく、一人ひとりの行動を改めて考えるイベントになりました。

それぞれの環境からオフィスの括りを超えて参加いただいた皆さん、ありがとうございました。ひとまず、今回でサステナビリティ編は終了となりますが、引き続き交流に楽しさを感じられる会を企画していく予定ですので、お楽しみに! (書き手：原田)

NAGAYA では、隔月のペースで「学び」や「わくわく」をシェアするさまざまなイベントを企画・開催しています。

今回は未定ですが、決まり次第メールなどでお知らせいたします。テーマやトークゲストも随時募集中です!

NAGAYA サポーターからひとこと

NAGAYA の活動を見守り応援して下さる、さまざまな分野のエキスパート「NAGAYA サポーター」からメッセージを頂いていますのでご紹介します。

上村 淳子さん

(オフィス・テレーズ 代表)



[NAGAYA 広瀬より]

上村さんは、NAGAYA AOYAMA オープン時からメンター的な存在として関わっていただけてきました。頼りになる大先輩です!

ビバ! NAGAYA メンバーの皆様
人生の晩秋をあっという間に迎えた身でございますが、思いがけないコロナ禍に襲われ、この2年は失われた感があります。一方、NAGAYA 周辺の若い世代の皆様は、ご自身を取り巻く世界や生活をナイーブに捉えて進めていらっしゃるの、とてもうれしいです。思えば、旧世代は、倫理感薄く経済優先の社会に翻弄されてきました。時は今、新世代の皆様は、事の本質をしっかり見据えて前進しておられることと思います。ビバ、ビバ、ビバ!!!どうぞ、健康でいらして下さいませ。

編集後記

(現) NAGAYA 会員のみなさんにインタビューさせていただき、プロダクトという仕事の素晴らしさを感じた時間になりました。自分が手がけたものが誰かに喜んでいただけるお仕事は素敵ですね。とても楽しかったです!

(原田優香)

日本とヨーロッパを行き来する奥谷さんが、「パリの人は自分の住む街に必ずマイカフェを見つける」とおっしゃっていました。マイカフェとまではいきませんが、私も引越すたびに最良の飲み屋さんを探す癖があります。マイ居酒屋……だと、ちょっと格好つかないんだよなあ。(吉澤瑠美)

執筆・編集：原田優香、吉澤瑠美
コーディネート：広瀬新朗